

No. 115
2014
Winter

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 新年を迎えて、防災訓練、アイススケート部インカレ出場、国際防災フォーラム、学生チャレンジプロジェクト事業
- p4-5 野球部一部昇格、独立リーグ指名、ETロボコン、きものデザイン、研究発表会、彩才祭、デザインコラボ、食と農林漁業大学生アワード、新相談員ロボットコンテスト、教育改善シンポ、フォーラム開催、建築デザイン研究会表彰、新役員、就職懇談会、教育長就任、海外研修参加者募集、入試日程、行事予定
- p8-9 **カラーページ**
「八戸工大二高美術コース誌上作品展」

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 修学旅行、宿泊研修、学年研修、工大一祭、三部展 + 1、就職希望内定率100%達成、吹奏楽部コンサート、青森県高総文祭、ソチオリンピック出場、ロボコン全国大会、国体第3位

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 進路状況中間報告・合格先一覧、日米青少年交流事業、生徒会「K-O運動」、修学旅行、高大連携、美術コース作品展、ボランティア活動報告

さくら幼稚園

- p14-15 はっぴょうかい、餅つき会、みどりの風、とらんぼりん

- p16 理事会報告、編集後記

新年を迎えて ～さらなる教育の質向上を目指して～



学長 藤田 成 隆

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、卒業生の社長就任、教育長就任、技術大賞受賞、また学生団体の大会優勝や最優秀賞受賞、学生個人の文部科学大臣奨励賞受賞、そして教職員の地域貢献や優秀学術論文に関連した受賞、さらにNHKや民放による教育研究成果の全国放送など、卒業生、学生、教職員が大いに活躍した年でした。

さて、時々、新聞紙上でPISA（学習到達度調査）や7分野の国際科学オリンピックについての記事を目にします。PISAは、知識や技能を実生活でどれだけ活用できるかを調べるもので、科学オリンピックは、世界の高校生が理論、実験、実技などの試験で実力を競い合うものです。このような国際的な調査やコンテストでは、思考力、予測力、課題解決力などが強く求められ、まさしく現代社会が本当に必要とする力だと思います。本学では、詳細は省略しますが、学生の学士力、専門力、人間力を向上させるきめ細かい教育を実施し、特に実験・実習・演習・卒業研究では、課題解決能力を身に付けさせる工夫をしています。

本学は、昨年、日本高等教育評価機構（JIHEE）が実施す

る国内すべての大学に義務付けられている機関別評価（大学別評価）の審査を受け、大学の使命・目的、学修と教授、経営・管理と財務、自己点検・評価に関わる22の基準項目について、書面調査や教職員・学生との面談および視察などの実地調査が行われました。その評価結果は、今年度中にJIHEEから公表されることになっています。また、本学は、日本技術者教育認定機構（JABEE）が実施する分野別評価（専門別評価）の審査も独自に受けています。こちらも教育のみに関わる24の点検項目について、書類審査や面談・実態調査などの実地審査が行われ、昨年は1学科1コースが新たに認定され、全国でも珍しい工学部全学科がJABEE認定教育プログラムを持つ体制となりました。修了生は、国家資格で難関の技術士の第一次試験が免除され、「技術士補」となる資格が得られます。この認定制度は、工農理系分野に限られているため、感性デザイン学科はJABEE精神に基づいた充実した教育プログラムを設定し、工学部と同様に教育の質向上を図っています。

特にJABEEでは、アウトカムズ（学習成果）が重視されるとともに、問題解決能力やチームワーク力なども強く求められています。これらを実現するためのカリキュラムと教育システムが、JABEE認定教育プログラムと称されるもので、教育の質向上のために、PDCA（計画・実行・評価・改善）による継続的な教育改善を今後も一層強化していきます。

平成25年度防災訓練

11月27日、八戸東消防署の協力を頂き平成25年度の防災訓練が行われた。午前の講義が終わろうとしている11時50分、地震発生を知らせる緊急避難音と非常放送によって地震発生訓練がスタートした。昨年同様、学生には訓練の実施を事前に知らせていなかったが、講義を受けていた学生達は教職員の誘導により教室、研究室、廊下などから屋外へ一斉に避難した。避難が完了し各避難場所に集まった学生と教職員



は、消防署員による講評を受け訓練が無事終了した。

避難訓練終了後、屈折梯子車による救助訓練が行われた。教養棟の前に梯子車が到着し、長いアームを教養棟の4階まで伸ばし、逃げ遅れた2名を窓から救出する様子を学生や教職員らが真剣なま

なざしで見守った。その後、事務系・技術系職員による放水訓練、消火器操作訓練、警備員による発電機操作訓練が行われ、訓練はすべて終了した。

防火管理者の西田中裕祥法人事務局次長は、「今年度は、新たな試みとして梯子車による訓練を実施した。梯子車による救助訓練は体験する機会があまりないので、実施できてよかった。外気温が低い中で、学生も教職員も真剣に取り組んでくれた。今後も防災意識の向上と体制の強化を図っていきたい。」と話した。



アイススケート部インカレ出場



初のベスト8進出

11月18日、八戸市で行われた「RAB杯第66回青森県アイスホッケー選手権大会」の決勝戦において、ホッケー部門が八戸ブルースターズに2対3で惜敗したものの、創立初の準優勝を成し遂げた。また、平成25年度東北地区学生アイスホッケー選手権大会兼第86回日本学生氷上競技選手権大会東北地区予選では、2年振り3度目の東北地区優勝を達成し、12度目のインカレ出場を果たした。

インカレでは、ホッケー部門は1回

戦関西学院大学に接戦の末勝利すると、続く2回戦では京都産業大学にこちらも激闘の末勝利し、初のベスト8進出を果たすとともに、来年のインカレシード権を獲得した。創立以来初の快挙達成に、スタッフ選手一同喜びに湧いていた。また、フィギュア男子シングルに出場した木村真人さん（感性デザイン学科4年／青森・八戸工大一高）は、ジャンプに精細を欠き22名中、15位という成績だったものの、スピンでは最高難度の評価を受けた。

ミニ国体青森県代表選手に2名選出

12月14日・15日、山形市で開催された平成25年国民体育大会東北ブロック大会兼第40回東北総合体育大会アイスホッケー成年は、青森県が宮城県を5-4で下し優勝した。

この大会には、本学アイススケート部アイスホッケー部門の1年生、フォワードの吉田一眞さん（機械情報技術学科／青森・八戸工大一高）写真左とゴールキーパーの鈴木悠生さん（バイオ環境工学科／青森・八戸工大一高）が出場し優勝に貢献した。平成23年に全国優勝している青森県チームは、県内実業団チームの選手や関東・関西地方の強豪大学で活躍する地元出身選手などで構成されている。1年生ながら選出されたことは、非常に名誉で二人の実力が全国レベルと評価された証。更なる活躍が期待されている。



防災技術社会システム研究センター

「市民と一緒に考える国際防災フォーラム」開催

10月31日、八戸プラザホテルにおいて、昨年度に引き続き本学防災技術社会システム研究センターが主催する「市民と一緒に考える国際防災フォーラム」が開催された。

英語（逐次通訳）と日本語で行われた今回のフォーラムは、初めにドイツのジェイコブス大学のアンドレアス・バーク教授が、「知能ロボットのための環境センシング：SFと現実の工学は近づいている」と題して講演し、ロボット技術におけるセンサーデータの情報を得る収集能力について解説した。次にアメリカのカーネギーメロン大学ロボティクス研究所のネイサン・マイケル博士が、「被災環境下における小型飛翔ロボットのための自律ロバスト制御」に関し、震災によって被害を受けた仙台市での建物内の探索を行ったフィールド実験を含めた事例について解説した。続いて、文部科学省「原子力研究交流制度」で、本学で研



究を進めているカザフスタン国立大学原子力物理研究所のサギム・クリシュバイエム技術専門員とスリランカのサバラガムワ大学物理化学技術部のリオン・フェルナンド氏が、自国におけるエネルギー事情について紹介し、最後に防災技術社会システム研究センターの佐藤学教授が、「安定したエネルギー確保に関する研究」と題して講演し、東日本大震災後の本学の取り組みを紹介した。

また、講演の終了後ポスターセッションが催され、本学学部学生、大学院生、教員らによる英語でのプレゼンテーションと意見交換が行われた。

成果に期待

「学生チャレンジプロジェクト事業」

本学の新たな助成事業として、学生のグループが自発的な発想で身近な課題に取り組み、その成果を社会へ還元することを目的とする「学生チャレンジプロジェクト事業」がスタートし、11月26日に交付式が行われた。

この事業は、学生グループの取り組みに対し、1団体10万円を上限とする活動費を助成するもので、「地域の魅力発信プロジェクト～三陸復興国立公園ジオラマ制作」「八幡馬のリデザイン」など6つのプロジェクトが選ばれた。5月に公开发表会が予定され、特に優れたプロジェクトに表彰状と副賞が授与される。



硬式野球部一部へ復帰 北東北大会2部リーグ優勝



10月5日・6日、2013年度北東北大学野球秋季入替戦が行われ、本学野球部が一部昇格を決めた。

事実上の優勝決定戦となったリーグ戦第3週目のノースアジア大との1戦目は、ノースアジア大のエースの時速140km近い速球と多彩な変化球に惑わされヒットは僅か1本だったが、その1本が山本温（土木建築工学科4年／

青森・八戸工高）のツーランホームランで、2対1で勝利。2戦目は、先発の鈴木祥高（土木建築工学科2年／青森・五所川原商高）が7回を無失点で切り抜け、8回からは前日完投勝利した古川慎也（機械情報技術学科2年／青森・八戸工大一高）が得点を与えず0対0の緊迫した展開の中、迎えた9回裏に先頭2番の小林修（機械情報技術学科4年／青森・東奥義塾高）が死球で出塁、3番の荒道好貴（土木建築工学科4年／青森・八戸工高）がレフト前ヒットで繋いで、4番の山本温がセンターオーバーのサヨナラヒットを打ち勝利した。リーグ戦を10連勝で優勝した本学チームは、入替戦も弘前大に2連勝し3季ぶりの一部復帰を果たした。（敬称略）

「ヒット&ラン」2年連続全国大会出場

11月20日・21日、横浜市のパシフィコ横浜で開催された「ETロボコン2013チャンピオンシップ大会」に、システム情報工学科の山口広行准教授の研究室チーム「ヒット&ラン」が出場した。

この大会は、指定された二輪ロボットに各チームが開発したソフトウェア



を搭載し、走行タイムを競う「デベロッパ部門」とロボットを用いた演出を競う「アーキテクト部門」に分かれて行われ、全国363チームの中から各地区大会で上位の成績を収めた40チームが参加した。

本学チームは、東北地区大会で総合優勝に輝いて全国大会への切符を手にし、今年新設されたアーキテクト部門に出場したが、本番では無線機器にトラブルが発生し、予定の演出を披露できなかった。次の大会には、今回の経験を生かし新メンバーで再挑戦するという。出場した山口研究室の4年のメンバーは、高橋紘貴さん（青森・八戸工高）、白坂朋憲さん（青森・八戸南高）、沼山廉さん（青森・八戸工高）の3名。

第17回全国きものデザインコンクール「入選」

第17回全国きものデザインコンクール（主催：全国染織連合会）に応募した、感性デザイン学科4年の瀬戸香織さん（宮城・黒川高）写真左が一般部門CGの部で、同3年の工藤奈菜代さん（青森・黒石商高）が一般部門手描の部で入選を果たした。

このコンクールのテーマは「自分が着たいキモノのデザイン」で、二人は全国5,076点の応募作品の中から選ばれたもの。受賞作品は、1月24日～



26日に京都市美術館、2月25日～3月1日にパリの日本文化会館に展示される。

独立リーグから指名

12月6日、プロ野球独立リーグ「BCリーグ」の2013年ドラフト会議が開催され、硬式野球部の荒道好貴さん（土木建築工学科4年／青森・八戸工高）が、「福井ミラクルエレファント」（福井県）の指名を受けてプロ入りすることになった。



荒道さんは、右投げ・右打ちの内野手で、171cm・72kgの小柄ながらも遠投115mの強肩強打者。北東北大学野球秋季リーグ2部では、打率4割4分7厘をマークし、二塁手部門のベストナインに選ばれている。

観光まちづくり学会研究発表会「優秀発表賞」



10月27日、盛岡市の岩手大学を会場に「平成25年度観光まちづくり学会盛岡大会第12回研究発表会」が開催され、感性デザイン学科4年の工藤沙友美さん（青森中央高）と沼口真貴子さん（青森・八戸工大二高）が、優秀発表賞に輝いた。

今回の研究発表会では、研究者による観光・まちづくり関連の研究発表のほか自治体の観光施策、海外の観光まちづくりの事例などの紹介があり、二人は「高齢者のためのやさしい広域観光に関する研究」というテーマで発表を行った。

発表した内容は、八戸観光コンベンション協会が実施した「やさしい広域観光検討委員会」に加わって地元の宿泊施設や観光施設のバリアフリー化の現状を調査し、その結果をもとに高齢者を含む多くの人々がより広い地域の観光を楽しめるよう、ユニバーサルデザインに配慮した観光マップを作るといったもので、提案の新規性と活動の具体性が高く評価された。

平成25年度彩才祭を終えて



11月23日、文化会主催の「彩才祭」がイオンモール下田で開催され、今年には学生サークル14団体が参加しました。今年の彩才祭は「来場者に楽しんでもらう」ことを目指していたので、来場者から寄せられたアンケートの「子供と一緒に楽しめてよかった」「来年もぜひやってほしい」などの感想

が、とても嬉しく感じます。今回は、開催時間の見直しや新しいサークルの参加もあって、昨年を上回る1300名以上の方にサークルの活動を知ってもらうことができ、充実した彩才祭だったと思います。

準備を進める中で、気持ちだけが空回りして意見が衝突し、サークルをまとめることがこんなに難しいとは思いませんでした。この経験を次回に活かしていきたいと思っています。参加した14団体の皆さん、学友会、体育会の皆さんの協力に心から感謝します。

文化会会長 石村 瑞稀
(機械情報技術学科3年/青森・弘前高)

感性デザイン学科 地元企業とのコラボレーション

日本酒の干支ラベル

名久井愛保さんのデザインに決定

地元酒造会社「桃川」が正月用に販売している日本酒の干支ラベルデザインのコラボレーションで、感性デザイン学科3年の名久井愛保さん(青森・八戸工大二高)のデザインが採用された。5回目となる今回は、平成26年の干支「馬」がモチーフ。名久井さんのデザインは、白馬がラベルから飛び出すように描かれ、馬を囲む赤い円に力強い「午年」の文字が配置されている。名久井さんデザインによる日本酒は、県内の販売店で11月から販売されている。



手ぬぐいデザイン

桃井万葉さんの作品が商品化



今回で3回目となる八戸市の企業「カネイリ」とのコラボレーション企画「手ぬぐいデザイン」で、感性デザイン学科3年の桃井万葉さん(青森・八戸工大二高)のデザインが商品化され、同社の店頭で販売されている。今回、昨年5月の種差海岸の国立公園園化にあわせた「八戸の自然」がテーマ。桃井さんの作品は、グレーがかかった青をバックにうみねこの姿を描いたもので、応募作品42点の中から選ばれた。

「食と農林漁業大学生アワード2013」に出場



11月17日、様々なイベントが繰り広げられた農林水産省主催の「食と農林漁業の祭典」の一環で「食と農林漁業大学生アワード2013」が開催され、バイオ環境工学科の学生らで組織する「食品研究会」のメンバー6人が、光照射乾燥したリンゴの加工品、米粉を使った菓子など、地域の恵みを生かした商品開発について発表を行った。

東京都「渋谷ヒカリエ」で行われたこの催しは、食と農林漁業に関わる活動に取り組んでいる全国の大学生グループの活動発表のコンテストで、食品研究会は全国47団体の中から選ばれた11団体の一つとして出場した。コンテストの結果は、最優秀賞の農水大臣賞に東京大学のサークルが選ばれたが、発表した3年の中居秀太さん(青森・八戸工大二高)は、「同じような活動をしている学生の発表を聞いて刺激になった。地域再生に貢献したい気持ちがより一層強まった」と話していた。

学生相談室 新相談員就任

専門のカウンセラー(非常勤相談員)が心の健康をサポートします。相談のある方は、学生課にお尋ね下さい。



渡邊 一弥 先生
(社会福祉士・精神保健福祉士)



能登谷 薫 先生
(臨床心理士)

第16回ロボットコンテスト開催



12月18日、A Vホールにおいて機械情報技術学科3年の「ロボット創作」の授業で実施している「ロボットコンテスト」が開催された。

16回目となる今回の開催タイトルは、「スカイツリーを目指せ」。学生達は、7月に設計に取りかかり、アイデアあふれるロボットを作り上げた。今回の課題は、フィールドに置かれた3カ所の障害物を避けながら自走するこ

とと大きさの異なる5種類の円柱を所定の位置まで運び、高さ634mmのタワー（東京スカイツリーの1/100）のように積み上げ、その速さを競うもの。今年もユーモアあふれる名前が付けられたロボットが、トーナメント形式で戦った。

今回全15チームの中から決勝に勝ち上がったのは、内条大河さん（岩手・盛岡中央高）、田村和也さん（青森・むつ工高）、鳥谷部信さん（青森・八戸工大一高）の3人が製作したロボットで、ロボット名「山下太郎」。スピードと安定した動きで優勝の呼び声の高かったこのロボットは、最後まで他を圧倒した。

白熱した試合が繰り広げられた会場は、終始応援の声や笑い声であふれ、試合終了後に講評と表彰式が行われた。

第15回教育改善に関するシンポジウム 第7回大学院FD研修会

10月15日、大会議室において「第15回教育改善に関するシンポジウム・第7回大学院FD研修会」が開催された。この研修会は、教職員が本学の学部及び大学院が当面する重要課題について共通理解を深め、活発な討議によって教育活動の改善を図ることを目的に行われているものである。

今回討議された一つ目のテーマ「金沢工業大学の教育・学習支援システム」（金沢工業大学藤本元啓教授）では、同大学における初年次教育・キャリア教育・ポートフォリオシステム・プロジェクトデザイン教育などの具体的事例紹介があった。二つ目のテーマ



「アクティブラーニングの事例（大学院・学部）紹介」（藤岡与周システム情報工学科教授）では、東北地区の他大学における大学院と学部合同のアクティブラーニング事例について報告があり、活発な質疑応答がなされた。

水産食品の未来を創るフォーラム in 八戸

11月28日、エネルギー環境システム研究所とバイオ環境工学科が主催する「水産食品の未来を創るフォーラム in 八戸」が、八戸水産会館で開催された。

このフォーラムは今回初めて開催されたもので、水産都市八戸の今後の水産食品開発の可能性を産学官連携によって探ろうというもの。藤田成隆

学長の挨拶に続き、「全水加工連、全蒲の品評会で見えてくる最近の商品開発」と題する東京海洋大学の福田裕特任教授による特別講演と本学教授らによる3件の研究成果の発表があった。参加した水産関連の行政担当者、水産加工業者ら50名ほどが最後まで熱心に聞き入っていた。

建築デザイン研究会の活動が評価

八戸市から感謝状

11月21日、市庁舎において小林眞八戸市長から、建築デザイン研究会代表に感謝状が手渡された。この感謝状は、同研究会のメンバーらが東日本大震災を風化させないようにと八戸市が建設した3カ所の災害公営住宅に、被災したクロマツを利用して作ったベンチ5脚を寄贈したことによるもの。



「学生ボランティア賞」受賞

11月26日、ソロプチミスト日本財団S I八戸（種市悦子会長）の顕彰事業贈呈伝達式が八戸パークホテルで行われ、建築デザイン研究会に「学生ボランティア賞」が贈られた。

同財団は、さまざまな奉仕活動に対する援助や協力を行うことによってより豊かな生活を実現し国際相互理解の促進に寄与することを目的に、支援・奨励・顕彰・援助の4つの事業を行っており、顕彰事業の一つである「学生ボランティア賞」は、地域のボランティア活動を行っている中学校、高等学校、短期大学、大学、高等専門学校、専修学校等の教育機関に在籍している個人または団体に贈られる賞である。今回この賞には全国から15団体が選ばれ、建築デザイン研究会は、地元小学校で実施した防災マップ作りなどの防災教育活動が評価された。

平成26年度新役員



学友会委員長

田村 友宏
（システム情報工学科3年／日本放送協会学園高）



体育会会長

大須田 司
（システム情報工学科3年／青森・八戸工大一高）



文化会会長

田守 健太
（システム情報工学科3年／青森・六戸高）

本格的にスタート 3年生の就職活動

12月1日から企業の学生に対する会社説明会等の求人活動が解禁され、2015年春卒業予定の3年生などの就職活動がいよいよスタートしました。本学では、学生と企業との面談の機会を増やし就職支援を強化する目的で、「学生と企業との就職懇談会」(大学独自の合同企業説明会)を年4回開催しています。主に3年生を対象とした平成25年度第3回となる就職懇談会が、12月12日・13日の両日、本学体育館において開催されました。

この2日間に、地元青森県をはじめ遠くは関西、中国地区まで合計198社の企業が参加しました。参加企業数は、今年の同時期と比較して30社ほど増えています。真新しいリクルートスーツに身を包んで面談に臨んだ学生は延べ552名に上り、企業ブースを積極



的に回り担当者の説明に真剣に耳を傾けていました。

12月末現在の4年生の就職内定率は、81%となっています。青森県内大学の平均を20%ほど上回っており、学生の頑張りもあり堅調な就職活動が続いています。3年生も目指す企業の内定を獲得できるよう、油断することなく現状をよく分析して厳しい就職戦線を勝ち抜いて欲しいものです。

学務部次長 阿波 稔
(土木建築工学科教授)

浅利能之氏 野辺地町教育長に就任



昨年10月、本学OBで元青森県立弘前工業高等学校校長の浅利能之氏(学校法人八戸工業大学評議員)が、氏の出身地である野辺地町の教育長に就任されました。

浅利氏は、電気電子システム学科の前身である電気工学科を昭和51年度に卒業され、卒業後教員として長きにわたり人材育成に尽力されました。地元教育の発展のため学校現場や教育行政での経験を生かした浅利氏の更なる手腕が期待されています。

平成26年度海外研修 参加者募集

(卒業の単位として認定)

英語研修

- ・研修期間
平成27年2月下旬(予定)
- ・研修先
南クイーンズランド大学
(オーストラリア・トゥーンバ市)
- 問合せ先 斎藤 明宏(助教)
TEL 0178-25-8051

中国語研修

- ・研修期間
平成26年8月下旬(予定)
- ・研修先
瀋陽工業大学(中国・遼寧省瀋陽市)
- 問合せ先 山本 忠(准教授)
TEL 0178-25-8130

平成26年度入試日程

工学部・感性デザイン学部 問合せ先 入試部入試課 0178-25-8000(直通)

選抜方法		願書受付期間	試験日
専門高校入試☆		平成26年1月6日(月)～1月22日(水)	平成26年2月4日(火)
一般入試	前期☆	平成26年1月6日(月)～1月22日(水)	平成26年2月4日(火)
	後期	平成26年3月3日(月)～3月11日(火)	平成26年3月19日(水)
センター 利用入試	前期☆	平成26年1月6日(月)～1月31日(金)	平成26年1月18日(土)・19日(日) の大学入試センター試験 (本学の個別試験は課さない。)
	中期	平成26年2月3日(月)～2月21日(金)	
	後期	平成26年3月3日(月)～3月14日(金)	
A O 入 試	クール	エントリーカード受付期間	面談日
	第3クール	平成26年2月3日(月)～2月12日(水)	平成26年2月21日(金)
	第4クール	平成26年3月3日(月)～3月11日(火)	平成26年3月18日(火)

☆…学業特待生選考試験を兼ねる

2月～4月 行事予定

2月

- 4日(火) 専門高校・一般入試(前期)
- 17日(月) 大学院入試(二次)
～18日(火)
- 19日(水) 第4回就職懇談会
～20日(木)
- 21日(金) A O入試

3月

- 16日(日) 春のオープンキャンパス
- 18日(金) A O入試
- 19日(水) 一般入試(後期)
- 20日(木) 学位記授与式
- 31日(月) 後期終了・学年終了

4月

- 1日(火) 学年開始・前期開始
- 7日(月) 平成26年度入学式
- 8日(火) 前期授業開始
ガイダンス ～9日(水)
- 9日(水) 開講試験(1学年)



理事会

学校法人八戸工業大学は、下記のとおり理事会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通り承認した。

◇11月15日 理事会

- ・協議報告事項

◇12月20日 理事会

- ・学校法人八戸工業大学「非常勤講師就業規則」制定に関する件

◇1月17日 理事会

- ・任期満了に伴う後任の学校長候補者の選任に関する件

編集後記

日本各地で開催されるイベントで「ゆるキャラ」が大活躍をしている。当地八戸市のマスコットキャラクターは「いかずきんズ」といい、市制施行80周年（平成21年）のイメージキャラクターとして誕生した。デザインしたのは、当時八戸工大二高の美術コースに在籍していた夏堀円（旧姓吉田）さん。「いかずきんズ」は、八戸市が水揚げ日本一を誇る「烏賊」と市の鳥「海猫」をモチーフにした水色とピンクのイカの頭巾を被った2羽のウミネコ。昨年5月の種差海岸国立公園指定を記念し、新たに黄緑色の頭巾に蝶ネクタイとズボンの男の子と赤いリボンをつけた黄色の頭巾にミニスカートの女の子（夏堀さんがデザイン）が誕生し、4羽のファミリーになった。八戸市の正式なマスコットキャラクターとして一般公募による名前も決まり、市のPR活動の一役を担うらしい。

以前、本誌101号で紹介した工業大学のマスコットキャラクター「八工犬」も活躍中だ。工学部を象徴する尻尾の先が「差込みプラグ」の水色の八工犬と感性デザイン学部を象徴する尻尾の先が「絵筆」のピンクの八工犬。2匹は、並んだり振り向いたり後ろ姿になったり、五月人形の兜や消防士のヘルメットを被ったりしながら、あちらこちらに出没している。



表紙	八戸工業大学第二高等学校 「KAKEHASHI Project」アメリカ合衆国議会議事堂(ワシントンD.C.にて)
裏表紙	八戸工業大学第二高等学校 アサヒビール(株)主催「日本の環境を守る若武者育成塾」成果発表会 (アサヒ・アートスクエアにて)